

シミズグループのグリーンインフラ+ (PLUS)



活動場所

技術研究所再生の杜（東京都江東区）
八ツ堀のしみず谷津（千葉県富里市）



活動目的

Shimzu Beyond Zero 2050（シミズグループの環境ビジョン）の達成を目指し、人と生き物がいきいきと共生する持続可能な社会の実現に貢献することを目的としたグリーンインフラ+（PLUS）を推進しています。

活動内容

自然生態系の保全・回復の強化と豊かな自然の恵みのまち・地域への還元を目指す2つの先導プロジェクトを推進しています。

再生の杜は、都市における生態系回復の実証フィールドとして技術研究所内の建物跡地に2006年に創出された約2,000㎡の都市型ビオトープです。地域性に配慮した在来種緑化やエコトーンを整備し多様な生きものの生息生育空間を育んできました。樹林や水辺には野鳥が頻繁に飛来し、地域の生態系ネットワークに貢献しています。また陸域・水域には絶滅危惧種に指定されている植物も継続生育しています。15年以上にわたり生物モニタリングデータを蓄積するとともに、「シミズ・オープン・アカデミー」として青少年向けの公開講座を通じて、都市において貴重な自然を体験できる場を提供しています。

こうした知見・ノウハウを生かし次につなげる活動が、八ツ堀のしみず谷津におけるグリーンインフラ実証のリビングラボです。本プロジェクトでは、都市化や耕作放棄に伴い荒廃した谷津をグリーンインフラとして実験的に再生し、その多機能性の実証しています。郊外にある谷津は、かつて水田として利用されつつ、生物多様性や水循環の場になっていた地域特有の自然資源です。台地に降った雨が地中にしみ込んで地下水となり長い時間をかけて湧き水として谷津の谷底で地表に出てきます。湧き水は夏でも冷たく、常に水がある湿地環境では様々な動植物が生息できます。また雨水を谷底に一時的にためることで下流への流出負荷低減や水質浄化にも貢献できます。国立環境研究所、東邦大学、NPO富里のホテル、おしどりの里を育む会、NPO法人アースウォッチ・ジャパンと連携し、谷津の賢い活かし方を学びあう場づくり（リビングラボ）を進めています。



PRしたいポイント

- ◎都市における生態系回復の長期実証、生態系ネットワークの形成
- ◎地域特有の自然資源を賢く活かすグリーンインフラの実証とリビングラボ

活動効果、今後の展開 等

- 長期実証の知見・ノウハウを蓄積しつつ、地域のNPO等との連携を強化することでにおける広域の生態系ネットワーク形成に貢献していく。
- 生物多様性や水循環等のコベネフィット効果の実証を進めつつ、周辺地域のステークホルダーとの対話・連携を進め、流域・土地利用レベルでの地域課題の解決策を探索していく。

清水建設株式会社

<https://www.shimz.co.jp/company/about/sit/facility/facility13/>

<https://www.shimz.co.jp/greeninfraplus/>